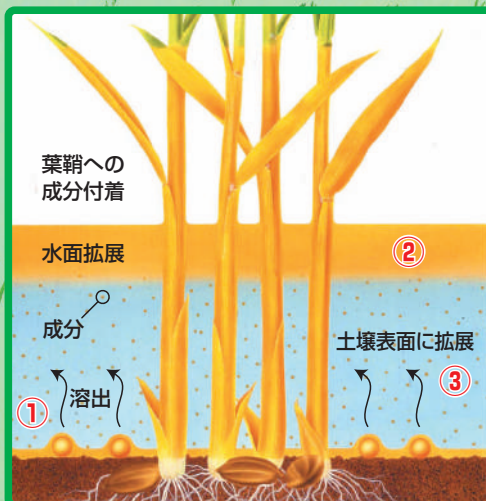


# 水稻の重要害虫を、 水面施用で適期に防除。 周辺への飛散の心配も少ない トレボン粒剤。

稲発酵粗飼料(WCS)用稲にも  
ご使用いただけます※

※「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」の2015年3月  
改正において、追加記載されました。

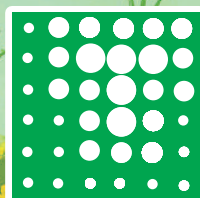
いぐさ・  
れんこん・さとうきび・  
畑わさび・わさびにも  
使えます。



## 水田に水面施用されたトレボン®粒剤の効き方

- ① 散布後、水中に沈んだ粒剤から溶出した有効成分が田面水表面に広がって、薄い膜状の層を形成します。
- ② 水面に広がった有効成分は、表面張力や毛細管現象、風波、水位変化などによって水稻葉鞘部や葉にも付着します。また、稲の伸長によっても有効成分の付着範囲は水面より上に広がります。これら有効成分が、水面付近や茎葉部で活動する害虫に効果を示します。
- ③ さらに、有効成分の一部は、田面水下の土壌表面に拡張して層を作ります。この層は、蛹になるために土中に潜ろうとするイネミズゾウムシ幼虫への防除効果に寄与していると考えられています。

殺虫剤

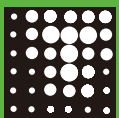


# トレボン®粒剤

有効成分:エトフェンブロックス…1.5%

トレボンは三井化学クロップ&ライフソリューション(株)の登録商標です。





## ■ 特長

- 粒剤の水面施用でイネミズゾウムシ、イネドロオウムシ、ウンカ類、ツマグロヨコバイなど水稲の重要害虫に効果を発揮します。
- いぐさ・れんこん・さとうきび・畑わさび・わさびにもご使用になれます。
- 粒剤なので周辺への飛散が少ないのもポイントです。

## ■ 適用害虫と使用方法

(2021年4月21日付拡大登録内容を含む)

作物名	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	エトフェンプロックスを含む農業の総使用回数
稲	イネミズゾウムシ イネドロオウムシ イネゾウムシ イネヒメハモグリバエ イナゴ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ	2~3kg/10a	収穫 21日前まで	3回 以内	散布	3回以内
	ニカメイチュウ第1世代	3kg/10a				
さとうきび	ハリガネムシ類	9kg/10a	植付時	1回	植溝 土壌混和	1回
いぐさ	イグサシンムシガ	2kg/10a	—	3回 以内	散布	3回以内
れんこん	イネネクイハムシ	3kg/10a	収穫 14日前まで			
畑わさび	ナトビハムシ		植付時	1回	植溝 土壌混和  散布	2回以内  植付時の土壌混和は 1回以内、 散布は1回以内
	ナトビハムシ ワサビルリイロゾウムシ		収穫 14日前まで			
わさび	ナトビハムシ		畑育苗期 ただし、 植付時  畑育苗期	散布		

## ■ トレボン<sup>®</sup> 粒剤・害虫別の散布適期

トレボン<sup>®</sup> 粒剤は幅広い水稲害虫に登録がありますが、効果を最大限に発揮するためにも、対象害虫ごとの適期に応じた散布をおすすめします。

害虫名	散布適期
イネミズゾウムシ	成虫の本田侵入期～飛来最盛期頃、早めに散布
イネドロオウムシ	成虫侵入最盛期～ふ化最盛期(幼虫発生初期)
ウンカ類 〔ヒメトビウンカ、セジロウンカ、 トビロウンカ〕	成虫期より幼虫期の方が防除効果は高いが、縞葉枯病等のウイルス病防除を主とする時は成虫期の防除も有効
ツマグロヨコバイ	成虫期～幼虫期いずれも有効
イネヒメハモグリバエ	成虫飛来期(田植後5~7日を目安とする)
イネゾウムシ	成虫の本田侵入期～飛来最盛期頃
イナゴ類	ふ化盛期の散布をおすすめします
ニカメイチュウ	発蛾盛期前～発蛾最盛期

\* 地域ごとの害虫発生時期や飛来最盛期に関しては、病害虫防除所等関係機関に相談されることをおすすめします。

\* 本製品は農業用殺虫剤であり、製品ラベルの記載内容以外には使用しないでください。

\* 本印刷物は2021年4月21日現在の資料、情報、データ等に基づいて作成していますが、記載データ及び評価はあくまでも測定値の代表例であり、全ての事例に当てはまるものではありません。

## △ 効果・薬害等の注意



- 使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
- 本剤を本田で使用する場合、湛水状態(湛水深3~5cm)でまきむらのないように均一に散布し、散布後少なくとも3~4日間はそのまま湛水状態を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意し、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
- 本剤を使用したわさびの苗を畑地からわさび田に移植する場合には、使用した農薬がわさび田の水系に持ち込まれないよう、わさびの苗に付着した土を十分に洗い落としてください。
- 蚕に対して長期間毒性があるので、近くに桑園がある場合には絶対に桑葉にかからないようにしてください。
- 散布器具、作業衣などは桑用と必ず区別してください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
  - ① ミツバチ等の巣箱及びその周辺に飛散するおそれがある場合には使用しないでください。
  - ② 関係機関(都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等)に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農薬使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

## △ 安全使用上の注意



- 誤食などのないよう注意してください。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣等を着用してください。作業後は手足、顔等を石けんでよく洗い、洗眼うがいをしてください。
- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないでください。
- 水産動植物(甲殻類、冷水魚)に影響を及ぼすので、河川、養殖池に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池等周辺での使用はさけてください。
- 散布後は水管理に注意してください。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管…密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷蔵、乾燥した所に保管してください。

万一、誤食・誤飲した場合には、速やかに医師の手当を受けてください。皮膚などにかかった場合には、十分な水で洗い流してください。さらに、異常を感じた場合は、医師の手当を受けてください。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。
- ラベルの記載以外には使用しないでください。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないでください。
- 容器、空袋などは圃場などに放置せず、適切に処理してください。
- 防除日誌を記載しましょう。

